

スタッフ・ポートフォリオ(職員業績記録)とは

スタッフ・ポートフォリオとは、職員として経験してきたことを振り返り、自らのビジョン(理念)とゴール(目標)を明確化したものであり、

1. 過去における仕事の成果やプロセス
 2. 身につけた能力、スキル、態度
 3. 自分自身の適性
 4. 現在の仕事の達成と成果
 5. ビジョン(理念)、ゴール(目標)
- について、自らが「見える化」し、職員としての能力を高めたり、組織の中で能力を活かすための効果的なツールである。

スタッフ・ポートフォリオの構成

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1) 氏名・生年月日などの個人の基本的情報 | 7) 今年(2009)の記録 |
| 2) 職歴 | 8) 地域社会での活動 |
| 3) 研修歴 | 9) 未来予想図(ビジョン、ゴール) |
| 4) 免許・資格 | 10) 私というひと |
| 5) 発表等歴 | 11) エビデンス(証拠、資料) |
| 6) 職歴・業務内容・実績等 | |



スタッフ・ポートフォリオを自由に書いてみよう

(自分で考え、記載することに意義がある)

- 1) 氏名・生年月日などの個人の基本的情報
- 2) 職歴
- 3) 研修歴
- 4) 免許・資格
業務に関係のない免許・資格もできる限り記載してください。
- 5) 発表等歴
業務に関連した発表は必ず記載してください。
例えば、学報(大学等の広報誌)の記事を書いた。
新聞に投稿した。
趣味で発表したことでも構いません。
- 6) 職歴・業務内容・実績等
異動に併せ記載してください。
記載は、〇〇を学んだ。〇〇した。〇〇ができるようになった。
- 7) 今年の記録
今年してきた実績である。
ルーチンの業績でもいいし、講演会を聞いたことでもいい。

※個人情報については、法令等の趣旨及び規定を踏まえ、利用目的の達成に必要な範囲内で適正に利用します。



スタッフ・ポートフォリオを自由に書いてみよう

8) 地域社会での活動

組織的な活動だけでなく、町内活動、市民大清掃、ボランティア活動など個人の活動も記載

9) 私の未来予想図(ビジョン、ゴール)

- ①成長記録(過去)
自分自身の能力、スキルなど記載
- ②今年の成長記録(現在)
初めての経験や新たに得た能力、スキルなどを記載
- ③今
現在の自分の仕事内容及び仕事に取り組む姿勢などを記載
- ④今年のビジョン⑤今年のゴール
今年(短期的)のビジョン、ゴールを記載
- ⑥MYビジョン⑦MYゴール
将来(長期的)に向かったのビジョン、ゴールを記載
組織の一員としてのビジョン、ゴールと個人としてのビジョン、ゴールを記載



スタッフ・ポートフォリオを自由に書いてみよう

10) 私というひと

①これまでの自分

- 経験してきた業務: 今まで経験した業務をすべて記載してください。
自分が専門と考える業務: 自分が最も得意とする業務を記載
同時に不得意な業務についても記載
- 語学力: 英語能力を5段階で自己申告してください。
その他、自分が得意な語学を記載
- 趣味: 自分の趣味を記載
特技: 自分の特技を記載
- ボランティア活動: 今までのボランティア活動を記載
- 感動経験: 自分が感動した経験(記憶にある経験)を記載
- 健康状態: 「良好」「やや不良」などの記載でも可能
- 長所、短所: 自分の長所、短所を記載



スタッフ・ポートフォリオを自由に書いてみよう

②今の自分

- 現在の職務(エフォート): 現在の業務内容を記載
併せて、エフォート(業務の割合)を記載
- 心がけていること
(工夫していること): 業務に対する取り組みで、自分自身が心がけて
(工夫して)いることを記載
- 現在の目標: ビジョンと重複するところもあるが、現在の自分の目標を記載
- 将来の目標: ゴールと重複するところもあるが、将来の自分の目標を記載

③これからの自分

- 今後経験したい業務
(他大学への異動希望): 自分が経験したい業務を記載
併せて、他大学への異動希望も記載
- 希望するエフォート: 自分がしたい業務の割合を%で記載



スタッフ・ポートフォリオを自由に書いてみよう

④今の自分があるのは

スタッフ・ポートフォリオでは、自分が今まで経験した仕事や備わった能力を記入してきた。このまとめ記載する。この時、自分の強み(長所)を意識して記入することが大切である。

⑤家族の特殊事情

特殊事情は、個人情報となるため、記載内容は個人の判断による。例としては、「父母が高齢で介護の必要がある」などが考えられる。

11) エビデンス(証拠、資料)

積極的にエビデンスを集める(作成する)努力が必要となってくる。研修を受ければ、上司に対する報告書を作成し、それをエビデンスとする。修了証書などもエビデンスとなる。講演会を受講したときは、パンフレットもエビデンスとなる。

